

授業科目名	地域文化論	科目コード	G1202P03
英文名	Regional Culture		

科目区分	学部共通科目 - 地域づくり科目		
------	------------------	--	--

職名	非常勤講師	担当教員名	木本 秀樹
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	1限目
開講時期	2年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>「地域」概念の多様性から1970年代、歴史学において「地域史研究」の理念が登場する。その後、大規模災害や各分野での流動化現象により、地域社会の継続性の困難さも指摘されてきた。こうした中で地域文化における技術・技能伝承、記録・記憶の不連続性や継承力の低下がさげばれながら、今世紀に入りこれらを克服しようとする新たな動向もうかがわれる。ローカルとは地域自体に籠もることではなく、例えば、「地域」という窓から日本全体や北東アジアなどを見る視点として位置づけていこうとするものである。そして地域に生きることの肯定感の高揚や地域社会を批判的（学問的）に見すえて変えていくとともに、ライフステージに応じた担い手育成の役割にも注視していきたい。</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	地域史研究	地域文化遺産	生活文化	継承力	地域知
-------	-------	--------	------	-----	-----

到達目標	：文化構造には、基層文化（ex.生活文化）のもとに表層文化（ex.芸術文化）があり、地域文化のもつ多様性や同質性、相互扶助の理念など様々な性格や形態、実情などについて理解を深めることができる。（60％）				
	：地域文化の継承や発展がこれからの地域力創造や地方再生の担い手となり、地域住民が「よりよい生活」を志向していく有用な手段となり得ることを理解することができる。（20％）				
	：社会全体に進行する「ネットワーク型ヨコ社会」や生活単位の基本となる「21世紀家族」の構成、住民間の自己存在感と他者理解の均衡など、地域社会における共存・共生のあり方や課題解決に向けた取り組みにつき、地域文化論の立場から志向することができる。（20％）				

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）	
カリキュラムポリシー	現代社会に必要な基礎知識の向上	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p>授業科目計画ガイダンス 「地域」・「文化」とは 本授業科目がめざす目的や実施計画、学修上の留意事項などを説明します。次いで、「地域」や「文化」を考える上での基本的な概念や視点、参考文献を提示するとともに、受講学生自身の出身地や居住する地域の文化のあり方を振り返ります。</p>	
	<p>【予習】出身地や居住する地域の地形・産業などの特色を踏まえるとともに、その地に根ざしてきた芸能や年中行事、現在も行われている（過去に行われていた）特徴的なイベントなどをわかる範囲で挙げる。第1回授業のあり、そのレポートを書いて提出する。第1回授業以降の予習のあり方は、随時各回授業時において説明する。</p>	60分
	【復習】	
第2回	<p>「地域」・「文化」とは 「地域」・「文化」概念については歴史学、民俗学、文化人類学などの学際的視点から解説します。また、「地域」や「文化」が時間的な経過（歴史）と空間的な広がり（地理）から多様に構成されて今日に至るとともに、さらに重層的に解釈できることを概観していきます。</p>	
	【予習】	
	<p>【復習】「地域」・「文化」のもつ多様性や多角的な視野からの観点を整理する。「地域」・「文化」に関しては、自分の興味関心となる視点を見出すことができるよう、毎回の授業内容を見直すことに努める。第2回授業以降の復習のあり方は、随時各回授業時において説明する。</p>	30分
第3回	<p>富山県の歴史と文化 富山県の自然環境と文化構造・県民性 日本の風土や富山県の自然環境を解説して富山県の文化を生み出した背景や文化圏を概観するとともに、古記録等から文化構造の要素を読み取っていきます。さらに県民性を育ててきた具体的な歴史事象をもとに、県民性の特徴や文化の土壌などを考える手立てとします。</p>	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	<p>富山県の歴史と文化 時代区分と古代・中世の越中 日本史上の時代区分を概観し、古代の行政制度が今日の地域区分の基となることを理解します。さらに古代越中国の大家持と『万葉集』や立山と古代社会、中世鎌倉・南北朝・室町・戦国期の歴史事象から、全国的に特色ある地域史・地域文化の一端に触れる機会とします。</p>	
	【予習】	
	<p>【復習】第4・5・6回授業のテーマから興味関心をもった事柄の一つ調べてまとめ、レポートを提出する。（詳細は授業時に説明する）</p>	120分
第5回	<p>富山県の歴史と文化 近世の越中・近現代の富山県 近世では佐々成政、前田氏による支配ー加賀藩及び富山藩の政策や特徴的な越中売薬について紹介します。近現代では富山県誕生に至る変遷や工業県としての発展、高度経済成長と日本海時代の到来、交通ネットワークの整備など、今日の富山県の姿に迫ります。</p>	
	【予習】	
	【復習】（第4回-復習内容と同様）	
第6回	<p>富山県の歴史と文化 立山にみる文化構造 奈良時代から歴史の舞台に登場し、平安時代から信仰の山として広まり、全国的に布教を展開した立山信仰史を解説します。また、日本の山岳信仰や日本人の精神世界との関わりにも触れるとともに、今日の観光の山ー立山とその文化構造について考える機会とします。</p>	
	【予習】	
	【復習】（第4回-復習内容と同様）	
第7回	<p>「山」・「川」・「海」の文化と思想 自然地形には、それに関係性をもつ集団の営みや文化的要素が内在するとともに、その根底に息づいてきたものに日本のみならず、東アジアにおける思想的背景が存在することを解説します。中でも、これらが日本における精神文化の基調となっていくことにも触れていきます。</p>	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	<p>地域社会と文化遺産 富山県に現存する伝統芸能に関する映像（「とやまの奥山（ひきやま）」）を視聴して、現存する文化遺産の一端を解説します。さらに、それらのもつ今日的な文化的価値や現況について紹介するとともに、自分の身近な地域に存在する芸能やその保存に関わる考え方に迫ります。</p>	
	<p>【予習】第13回授業では、地域博物館・資料館について学修する。そこで富山県内の地域博物館・資料館などを紹介し、その中から1館を選択して事前に観覧する。（他に自分が観覧したい館でもよい）観覧は「地域」や「文化」といった観点を中心にして、第13回授業までの間にレポートを書いて提出してもらおう。（詳細は授業時に説明する）</p>	120分
	【復習】	
第9回	<p>地域社会と文化遺産 現代に生きる伝統芸能とそれを取り巻く今日の課題は、数々存在します。これらを踏まえて世界遺産、日本遺産をはじめとする国内外の遺産登録の現状とその背景について考える機会とします。</p>	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	生活文化とは 日本の風土に根ざしてきた生活文化とは何か、その内容の一端と視点を解説します。実例として、太平洋戦争後（1945年・昭和20年～）から今日までの日本の半世紀にわたる生活様式の変遷について取り上げ、生活文化という概念が登場するに至った背景を考えます。	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	生活文化とは 日本の風土と生活習慣を背景に、今日まで培われてきた太陰暦（旧暦）1年間の生活暦や年中行事について解説します。これら背景には日本のみならず、古代東アジア社会の思想が色濃く反映するとともに、現代においても姿形を変えて息づいていることの意義を考えます。	
	【予習】	
	【復習】 地域的特色や違いをとらえることを視点とし、自宅で食べる正月の雑煮の内容を確認してレポートを提出する。（詳細は授業時に説明する）	60分
第12回	「郷土史」から「地方史」、そして「地域史」へ 地域の歴史は、明治・大正期から昭和前期（～1945年）まで広く「郷土史」とよばれ、その後、1950年代の「地方史」、1970年代からは「地域史」と呼称して今日に至ります。これが単なる名称の変化のみならず、「郷土」の歴史研究や「地域」概念の変遷に基づくことを考えます。	
	【予習】	
	【復習】 これまで既習（既修）してきた歴史教科と本授業科目での「地域史」との相違する視点は何か、第3～6回授業内容も踏まえながら自分の考えをまとめておく。	60分
第13回	地域歴史遺産と生涯学習社会 地域社会に伝えられてきた歴史資料（史）料の存在、その保存や活用に向けた取り組みについて解説します。さらに地域博物館・資料館、自治体史編纂、市民講座、歴史的環境整備など、地域社会と地域文化をつなぐコーディネーターとしての役割や機能についても考えます。	
	【予習】 第15回授業・総括と発表（アクティブ・ラーニング）に向けて準備する。発表内容や形態、方法、機器の使用などについては、今回授業時以前から適宜指導していくが、自分の専攻や他授業科目の既修内容を踏まえた視点からの発表も期待する。	120分
	【復習】	
第14回	地域学と地域文化 地域学や地域づくり、地域学習の視点を提示してその背景について説明するとともに、近未来における地域社会の担い手育成に向けたあるべき姿や方向性についても解説します。さらに、地域文化の継承・発展をこれからの市民的教養として捉えていく姿勢も示します。	
	【予習】（第13回-予習内容と同様）	
	【復習】	
第15回	総括と発表 - アクティブ・ラーニング 地域文化の継承と発展を図る上で求められる資質や能力、地域づくりと地域文化との関わり、伝統文化の保存と地域開発との整合性など、各授業時に示したテーマの中から関心をもったものを選択して発表してもらいます。（自分の専攻を踏まえた視点からの発表も期待する）	
	【予習】	
	【復習】 これまでの学修内容の概略をまとめ、地域文化の振興を図る上で自ら課題解決に臨む姿勢をもつことができるよう、復習に努める。	120分
第16回	前期末試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>到達目標 及び では、授業中に指定する課題レポート、口頭発表、受講態度等を中心に評価する。(40%)</p> <p>到達目標 及び では、前期末筆記試験をもとに評価する。(60%)          評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。</p>	
使用資料 <テキスト>	<p>毎授業時には講師作成資料や記事、データ、映像(動画・静止画)などの教材を提示</p>	<p>使用資料 &lt;参考図書&gt;</p> <p>・『富山県史』各巻、各市町村史、地域史研究書、歴史学研究書をはじめ、テーマに</p>
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回-予習で挙げた、学生個人による地域博物館・資料館の観覧及びレポート提出。</li> <li>・学生の出身地や居住地における年中行事など、地域資源の確認。(授業時に説明する)</li> </ul>	
授業外質問方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時前後及び随時、理解度の確認。</li> <li>・講師と学生との時間調整により面談、その他による対応。(第1回授業時のガイダンスにおいて説明する)</li> </ul>	
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金曜日2時限 非常勤講師控室。(事前確認のうえで水曜日2時限も可)</li> <li>・講師と学生との時間調整により面談、その他による対応。(第1回授業時のガイダンスにおいて説明する)</li> </ul>	